

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年9月21日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.151]

## JR革マルリストの信憑性高まる！JR総連の主張こそ虚偽だった！

引き続き「JR革マル派43名リスト裁判」で原告のJR総連側が2010年6月30日に提出した準備書面にに基づき検証を進める。本号では、JR総連側が自ら認めた、国鉄内の革マル派メンバーから「トラジャ」と呼ばれる革マル派の常任活動家となった3名のうち、「リスト裁判」の原告にもなっている大久保孟氏について解説したい。同氏について、2008年9月22日に提出された「リスト裁判」の訴状には、「原告ら」として「原告大久保孟は、国鉄時代は動労に所属し、JRではJR東労組に加入したが、役職には就いていない」と記載されている。一方、JR総連側が名誉毀損の訴えの対象としている「JR東労組を良くする会」が作成した「JR革マル派43名リスト」には、大久保氏について以下の通り記載されている。下線部が、JR総連側が「リスト記載の虚偽内容」としている部分である。

旧動労本部青年部長などを歴任。首なし専従として君臨。JR移行時に、職業革命家として革マル派に。通称トラジャのメンバー。革マル中央派との対立時一時期海外に逃亡。現在は目黒さつき会館にあり、なぜかJR東労組所属で、JR総連の特別執行委員に就任している。

### 大久保氏はトラジャで革マル派中央と対立し海外逃亡！自ら認めたJR総連

提訴の時点でJR総連側は大久保氏について「職業革命家として革マル派に」「通称トラジャのメンバー」「革マル中央派との対立時一時期海外に逃亡」との記載は虚偽だと主張していたが、6月30日の準備書面では一転してこれを認めた。準備書面では、大久保氏が革マル派の常任活動家になったこと、革マル派からは「トラジャ」と呼ばれていたこと、そして今後検証するが、JRのメンバーと革マル派中央の対立が原因で、大久保氏は1997年2月に海外へ逃亡したことも記載している。この部分だけを見ても、「JR革マル派43名リスト」が虚偽なのではなく、「革マル派とは一切関係ない」と強弁してきた過去のJR総連側の主張こそが虚偽であることがわかる。虚偽の主張を行ってきたJR総連は、革マル派浸透の多数の指摘について、明確に説明する社会的責任があるはずだ。

このようにJR総連は、JR革マル浸透問題の追及によって、主張を大転換せざるを得ない状況まで追い込まれていることは確実である。その半面で「JR革マル派43名リスト」の信憑性は大いに高まっている。

ところで、前号で紹介したように、準備書面には「政治情勢や国際情勢にかかわること、哲学的な問題については(学習を)行ったものの、こと労働運動にかかわることは、JRの組合運動にまったく役に立たず、この学習はしなかった」「組合の取り組みにかかわることがらについては、革マル派とはまったく無関係に、独自に学習し討論をして方針を決めるなどした」と記載されており、革マル派の考え方がJR総連の考え方と外れていることを、ことさら強調している。しかし、「No.140」で指摘したが、JR内革マル派は、少なくとも、政治情勢、国際情勢、哲学的な問題に関する学習は続けており、今日もその認識は否定されていないということには十分注意しなければならない。

なお、JR内革マル派と革マル派中央との対立については、JR総連側の準備書面を紹介しながら、次号以降、さらに詳しく検証したい。